

全国環境研協議会加盟機関が実施している生物学的調査研究（平成29年度）

全国環境研協議会環境生物部会では、生物学的調査研究に関する情報交換を進め、共同研究への発展等に資することを目的として、加盟機関に生物学的調査研究の実施状況についてアンケート調査を実施しています。下表は、平成29年度に実施している調査研究課題名及び概要をまとめたものです。

実施機関名	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	北海道希少野生動植物委託業務 「北海道生物多様性の保全等に関する条例」に基づき、道内に生育する絶滅のおそれのある野生植物の保護対策の推進のため、指定植物の生育状況モニタリング調査をおこなう。
調査研究課題名 及び概要	湿原生態系保全に関する研究 湿原保全マスタープランに基づき、湿原保全プランを策定した湿原における植生変化を継続的にモニタリングし、変化の要因や保全管理対策を検討する。
調査研究課題名 及び概要	ロシア極東部に同所的に生息するツキノワグマとヒグマの種間関係と保全に関する研究 ツキノワグマとヒグマが同所的に生息するロシア沿海地方において、GPS発信器、カメラトラップ、安定同位体分などの手法を用いて二種のクマ類の種間関係について研究する。
調査研究課題名 及び概要	ニホンジカの低密度過程における生態系レジリエンス機能の評価手法の検討 長期にわたり個体数とシカ柵を用いた植生モニタリングが実施され、生息密度の低減が実現している知床世界自然遺産地域、阿寒国立公園、洞爺湖中島、神奈川県丹沢山地の4地域を対象に、ニホンジカの低密度化による生態系への影響緩和がどのような時系列でどのように出現するのか、不可逆的か否かについて、シカ柵の機能、植生、シードバンク、シカの体サイズと体重、土壌流出、土壌生態系、複数の昆虫群の反応比較と生態系機能に着目し、生態系レジリエンス機能の評価手法の検討と生態系モデルの構築を行う。
調査研究課題名 及び概要	白糠町におけるエゾシカ資源有効活用に関する研究 エゾシカの季節移動・生息動向を明らかにし、地域資源としての利用可能性を推定するとともに、持続的資源管理システムのモデルを検討する。
調査研究課題名 及び概要	ヒグマの生息及びあつれき動向の把握に関する研究 ヒグマの適正な保護管理を進めるうえで必要とされる科学的な根拠を得るために、全道各地の個体数及び人間とクマとのあつれきの動向を把握する。また、全道のパイロット事業地域としてヒグマの保護管理上の知見の集積が進んでいる渡島半島地域においては、ヒグマによるあつれきの発生機序を明らかにするために、被害発生状況の把握やあつれき発生時における加害個体の特定、問題個体数の推定を実施する。

(続き) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部環境科学研究センター

調査研究課題名 及び概要	痕跡試料を用いたヒグマ個体識別法の確立 痕跡調査や被害発生場所で採取した糞や食痕などのヒグマ痕跡試料から、効率よくDNAを抽出してできるだけ高い成功率で個体識別を行う手法を確立する。
調査研究課題名 及び概要	セイヨウオオマルハナバチの化学的防除手法の検討 国立環境研究所が開発したセイヨウオオマルハナバチの化学的防除手法について、石狩浜海岸草原において、実験的に薬剤塗布と在来種を含めたマルハナバチ類の個体数のモニタリングを行うことにより、野外における効果の検証と問題点等を明らかにする。
調査研究課題名 及び概要	エゾシカ総合対策に関する研究 ライトセンサスによるエゾシカの個体数及び個体数指数の推定、狩猟報告データによる効果的な狩猟規制の検討、および木本類や林床植生調査による森林植生に及ぼす影響評価を行うことによって、個体数の適正管理や生物多様性の保全に寄与することを目的とする。また、これらの研究結果を統合することによって、より精度の高い個体数推定手法を検討するとともに、個体数の動向、捕獲の状況及び生息環境の状況を考慮した総合的なエゾシカ対策を提案する。
調査研究課題名 及び概要	生物多様性からみた農村地域における農耕地以外の自然環境の現状と評価に関する研究 稲作を中心とする農村地帯にモデル地域を設定し、農耕地以外のため池、湿地、防風林等の自然環境要素について、基盤情報となる水環境や生物相の現況と過去からの変遷を把握することにより、生物多様性保全の観点から評価し、保全の方向性について明らかにする。得られた結果に基づき、行政担当者および農業者を対象にした農村自然環境の保全に向けた手引書を作成する。
調査研究課題名 及び概要	農村地域における草原性鳥類の生息環境に関する研究 麦畑や水田を中心とした農耕地において、作物の生育や農作業に伴って創出される環境の変化の中で、草原性鳥類がどのように農耕地を利用しているかを把握するとともに、防風林、畦、人家周辺など農耕地以外の環境の利用状況も把握することによって、農村地域を利用する主要な草原性鳥類の環境利用実態を明らかにし、生物多様性保全上配慮すべき営農方法及び環境要素を明らかにする。
調査研究課題名 及び概要	エゾシカ総合対策費（地域別個体群管理） 振興局別個体数推定手法を開発することで個体数管理の達成状況を地域別に定量化すると同時に、有用な捕獲技術を各地に普及するためモデル地域と技術移転先で双方向的に捕獲技術の改良を重ね、地域別管理を達成させる。

(続き) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部環境科学研究センター

調査研究課題名 及び概要	<p>捕獲ストレスに着目したエゾシカの肉質評価</p> <p>銃猟と小型囲いワナ(重点研究で開発)で捕獲したエゾシカの「肉質」の比較およびこれらの捕獲個体と既報のくくりワナ捕獲個体等の「捕獲ストレス指標」の比較を実施する。それによって、「捕獲ストレス」がエゾシカの「肉質」へ及ぼす影響を解明する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>札幌市内に出没するヒグマに関する研究</p> <p>札幌市の市街地およびその周辺に出没する個体の実態を明らかにすることによって、人の生活圏へのヒグマ侵入防止策を検討するとともに、ヒグマ石狩西部地域個体群に関する基礎的な情報を蓄積する。</p>
実施機関名	岩手県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>重要な絶滅危惧植物を存続させるための技術開発に関する研究</p> <p>「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」や「岩手県希少野生動植物の保護に関する条例」の指定種から、繁殖技術が確立されていない種の保護や苗生産法の開発に取り組む。</p> <p>[URL]http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kenkyuu/006934.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>イヌワシの生息数維持に向けた保全生態学的研究</p> <p>イヌワシの分布、繁殖状況、生息環境、個体群構造等に関わるデータを収集・解析し、生息数維持に向けた科学的知見を整備する。</p> <p>[URL]http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/inuwashi/top.htm</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ツキノワグマの個体群動態と将来予測手法の開発ならびに人里への出没メカニズムの解明</p> <p>モデル地域でヘア・トラップ調査を実施して個体群動態と将来予測を行い、捕獲上限数の算定方法を開発する。またGPSテレメトリーによる行動圏の把握をもとに人里への出没メカニズムを解明する。</p> <p>[URL]http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>五葉山地域に生息するニホンジカの個体数推定</p> <p>ニホンジカの生息数推定法を開発するため、各事業のデータを用いて自然増加率を推定する岩手県独自のシミュレーションモデルを構築する。</p> <p>[URL]http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ウイルス媒介性節足動物(ヒトスジシマカ)の生息に関する研究</p> <p>ウイルス性疾患を媒介する感染症対策上重要な節足動物であり、地球温暖化の身近な指標生物であるヒトスジシマカについて、生息北限地域における生息状況の調査及び生息条件の解析を行うとともに、自治体が行うヒトスジシマカの調査に協力する。</p> <p>[URL]http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyuu/006922.html</p>

実施機関名	宮城県保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	<p>底層溶存酸素量と生物種の関係性の調査</p> <p>平成28年3月30日に底層を利用する水生生物の保全・再生のため、湖沼の底層溶存酸素量に係る新たな環境基準が制定され、3つの類型が示された。</p> <p>今後、県として水域の特性を踏まえた適切な類型をあてはめることになるため、その基礎データとなる水生生物の生息状況や溶存酸素量の現状値等の調査を行うもの。</p> <p>[URL]http://www.pref.miyagi.jp/site/hokans/mizu-reserch.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>共同研究Ⅱ型「WET手法を用いた水環境調査のケーススタディー」</p> <p>国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、WET手法に関する情報収集を行う。</p> <p>本県は採水と基本的な水質測定での参加で、生物に対して何らかの影響が確認された場合には、原因物質の特定と低減策について国立環境研究所と共同で行う。</p>
実施機関名	秋田県健康環境センター
調査研究課題名 及び概要	<p>廃水処理施設における1,4-ジオキサン分解菌の挙動と活性促進因子の探索</p> <p>難分解性の化学物質1,4-ジオキサンが特異的に処理されている水処理施設において、生物処理槽に複数の1,4-ジオキサン分解菌を確認している。本研究では、1,4-ジオキサン分解菌の存在割合と処理効率を観察し、処理に有効な菌の種類や濃度について評価を行う。また、菌の単離を試み、様々な条件での分解能試験を行うことで活性促進因子の探索を行う。これらの検討により、恒久的に安定した廃水処理の実現を目指す。</p> <p>[URL]http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/28300</p>
実施機関名	山形県環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>自然生態系保全モニタリング調査</p> <p>森林を取り巻く自然環境の異変等を早期に察知するため、山岳地域や里山において、動植物の生息・生育状況等自然環境の調査を行っている。</p> <p>[URL]http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ブナ・ナラ豊凶調査</p> <p>森林の更新や野生動物の生息動向に大きな影響を与えるブナ・ナラの豊凶調査を行っている。</p> <p>[URL]http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ツキノワグマ生息状況調査</p> <p>現在、ツキノワグマによる農作物被害や人身事故の防止に向け、抜本的な対策が求められている。被害対策を行ううえで生息数の把握が極めて重要であることからカメラトラップを用いた生息状況調査を行っている。</p> <p>[URL]http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/</p>

(続き) 山形県環境科学研究センター

調査研究課題名 及び概要	酸性雨モニタリング(陸水)調査(環境省委託事業) 環境省の委託により酸性雨の中長期的影響を把握するため今神御池(山形県戸沢村)の水質等の調査を行っており、プランクトン調査も継続的に行っている。
実施機関名	福島県環境創造センター
調査研究課題名 及び概要	猪苗代湖水環境保全対策調査 猪苗代湖における大腸菌群数が環境基準を超過することが見受けられることから、大腸菌群の流入が大きい河川及び沖合の水質調査を実施し、流入負荷と拡散・生残状況を把握する。また、大腸菌群数が高く検出される時期においては大腸菌群の種を同定する。
調査研究課題名 及び概要	猪苗代湖の水環境に関する研究 猪苗代湖の中性化に伴い、特有の自然浄化機能が低下し、COD上昇及び大腸菌群数の環境基準超過など水質の悪化の傾向があることから、湖水中性メカニズムの解明及び汚濁負荷原因の解明を進めることにより水質汚濁の原因を明らかにし、水質改善へ向けた効果的な方法等について研究する。 また、近年、ヒシを含む水生植物の分布域の拡大や湖岸に漂着する枯死による水質悪化への影響が懸念されていることから、猪苗代湖内の水生植物の分布状況や水生植物の分布域が拡大している北岸部の水質について調査研究を行う。 [URL] http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf
調査研究課題名 及び概要	野生生物における放射性核種の挙動及び行動予測 野生動物の生体内における放射性セシウムほか放射性核種の挙動、食物連鎖による野生生物間での移行等の調査を行う。 また、食物連鎖に係る野生動物の食性を含む行動解析、年及び季節毎の野生生物の行動予測・筋肉中放射性核種濃度の変動に関する研究等を併せて実施する。 [URL] http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/102757.pdf
実施機関名	新潟市衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	新潟市河川における水生底生生物実態調査 「生物等による水環境評価マニュアル」(環境省)のスコア法に基づき算出したASPT値について、河川の水質の重要な指標であるBOD等との関連を経年的に見るため、長期の水質状況が把握できる公共用水域の常時監視地点を考慮した地点で調査を実施している。 下流域では、個体数が小さくASPT値の変動が大きいため、市独自に算出した加重スコア法(加重ASPT値)でも評価を行っている。 [URL] http://www.city.niigata.lg.jp/iryu/shoku/syokuei/shokueishisetu/eisei_ken/eiken_kouhousi.html

実施機関名	栃木県保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	水生生物調査 県内主要河川について、水生生物の生育状況を調査し、水質環境を生物学的に判定することにより、生物学的観点から水質を継続的に監視する。 [URL] http://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyou/hozen/jyoujiksikekka.html
調査研究課題名 及び概要	湯ノ湖沈水植物の植生調査 奥日光水域の水環境保全対策の一環として湯ノ湖に繁茂するコカナダモの刈取りを実施するに当たり、コカナダモのほか、ヒメフラスコモなど絶滅危惧種を含む沈水植物の植生及び生育状況を調査するもの。 [URL] http://www.thec.pref.tochigi.lg.jp/thec/result.htm
実施機関名	群馬県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	尾瀬国立公園尾瀬沼コカナダモ試験区の観察 1982年頃に目立ち始めた帰化植物のコカナダモについて、生態系保全のため試験区内において駆除し、その後の生育状況を経過観察し、その結果を年報にてとりまとめている。 [URL] http://www.pref.gunma.jp/07/p07110001.html (トップページ下段 研究所年報内「資料」の項目に記載)
実施機関名	埼玉県環境科学国際センター
調査研究課題名 及び概要	県民参加を主体とした光化学オキシダント（オゾン）によるアサガオ被害調査 毎年7月に県民参加により、県内で生じる光化学オキシダントによるアサガオ被害の状況を調べる。具体的には県民の協力により、県内約80地点程度でアサガオの葉に発現するオゾン被害を調査するとともに、その被害状況を地図化し、ホームページ等で公開する。 [URL] http://www.pref.saitama.lg.jp/cess/torikumi/asagaotyousa/index.html
調査研究課題名 及び概要	水稻の収量に対するオゾンリスク評価 我が国の主要水稻品種（約18品種）の収量に対する光化学オキシダントの主成分であるオゾンの影響の評価
実施機関名	千葉県環境研究センター
調査研究課題名 及び概要	WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ 国立環境研究所のⅡ型研究に参加。 ニセネコゼミジンコ及びオオミジンコを用いて、水生生物に係る水質環境基準の超過地点について生態毒性評価を行う。

実施機関名	公益財団法人東京都環境公社東京都環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>最終処分場浸出水の効率的処理技術の検討</p> <p>海面埋立処分場の浸出水には500mg/l程度のアンモニアが含まれるため、生物化学的な硝化脱窒素処理で窒素を除去しているが、酸化するためのばっきに大きな動力費が必要であり、脱窒処理に大量のメタノールを必要としている。アナモックス反応ではアンモニアと硝化した亜硝酸から脱窒素されるため、処理経費が安く見込まれる。浸出水を用いて小型の実験槽で硝化とアナモックス菌による脱窒素実験を行い、次に埋立地からの浸出水を貯めたポンプ井戸から、直接浸出水を浄化槽を改造した大型処理装置に導いて、硝化及び脱窒素の連続実験を行った。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>赤潮発生抑制効果を期待できる植栽樹種の研究</p> <p>赤潮発生抑制効果を期待できる植栽樹種を選定するため、東京湾における代表的な赤潮プランクトンである<i>Skeletonema costatum</i>について、プランクトンを含んだ寒天培地上に葉の切片を供試する方法（リーフディスク法）等を用いて、他感作用（アレロパシー）によりプランクトンの成長を阻害する植物を調査研究している。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>水生植物の多様性の評価と保全に関する基礎的研究</p> <p>都内水域に生育する水生植物（水草）について、生物多様性保全の観点から、水生植物の生育状況および生育場の環境特性を把握し、多様性の評価とその保全に資する基礎的知見の集積を目指す。</p> <p>併せて、取得した生物多様性情報および実標本について、その管理・活用方法等を検討する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>全天球画像を活用した緑地の立体構造把握に関する研究</p> <p>森林内で撮影した全天球画像を活用して森林の階層構造や植被率等の立体的な構造を把握する研究を行っている。都内の代表的な森林群落について毎木調査を行い、その結果と画像による専門家の判定の誤差を検証、活用可能性を検討すると同時に撮影方法の確立、さらには全天球画像から画像解析による自動判定も目指す。</p>
実施機関名	神奈川県環境科学センター
調査研究課題名 及び概要	<p>河川のモニタリング調査（県民参加型）</p> <p>県では、将来にわたり良質な水を安定的に確保するため、平成19年度から「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」に基づき、継続的な水源環境の保全・再生に取り組んでいる。</p> <p>その取組みの一環として、毎年、県民参加による水源河川の相模川と酒匂川水系の動植物生息状況や水質を調査する「河川のモニタリング調査」を実施している。 [URL]http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/suigen/top.html</p>

実施機関名	山梨県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>葉状地衣類の生息環境調査</p> <p>H26年度に終了した地衣類の分布調査の発展。葉状地衣類の被度が大気中窒素酸化物濃度の指標となるかを検討するため、同じ敷地内のソメイヨシノに着生する葉状地衣類の生息環境調査を行う。また、理科学習への応用を検討する。</p> <p>[URL]http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/lichenes.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>山梨県内河川の付着珪藻群集組成からみた水質判定</p> <p>付着珪藻は生息する水環境により構成種が異なることが知られている。それを利用して長期間の水環境を推測する手法も提案されている。本研究では県内の湖沼、河川で採取した付着珪藻の観察を行い珪藻アトラスを作成するとともに、各水域の水環境を判定することを目的とする。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>富士五湖における水生植物調査</p> <p>富士五湖における水生植物の水平分布調査を実施することで、水生植物種・量の変遷をモニタリングする。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>富士五湖におけるピコプランクトンの季節変動</p> <p>富士五湖におけるピコプランクトン量を調査することで、ピコプランクトンの季節変化をモニタリングする。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>県内水環境の外来底生生物調査</p> <p>外来底生生物生息地においてモニタリングを行う。また、新規生息地の探索も行う。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>県内の希少水生昆虫生息調査</p> <p>県内の希少水生昆虫の生息状況を調査する。併せてこれら希少昆虫が希少感染症の媒介者になる可能性を研究する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>県内のスギ、ヒノキ花粉の飛散状況に関する調査</p> <p>花粉症の原因となるスギ、ヒノキ花粉の飛散状況をダーラム法で観測し、自動測定法の結果と比較検討するとともに、飛散開始時期や飛散量の予測を行う。</p> <p>[URL]http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/63266933614.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>県内の Dengue 熱等感染症の媒介蚊の発生状況調査</p> <p>蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針に基づく、感染症媒介蚊の発生状況を調査し、蚊媒介感染症の発生に関する人及び蚊についての総合的なリスク評価の検討資料とする。</p> <p>[URL]http://www.pref.yamanashi.jp/kenko-zsn/kansensyou/mosquito_monitoring.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>市街地を中心とする蚊類の発生状況調査</p> <p>病原媒介性が高くかつ市街地に発生源を持つアカイエカ、ヒトスジシマカについて、発生状況を調査して新興感染症対策の基礎資料とする。</p>

実施機関名	長野県環境保全研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>野尻湖の水草帯の復元と保全に関する研究</p> <p>野尻湖では、かつて繁茂しすぎた水草の制御を目的として草食性の強いソウギョを放流したために喪失してしまった水草帯の復元を目指して、約20年間にわたる検討と対策がなされてきた。本研究は、沿岸域のソウギョ侵入遮断実験区とその周辺など複数の定点で水草を観察し、復元状況及び長期変化を把握することで、水草による水質浄化や生物多様性保全の役割を取り戻し、野尻湖が望ましい湖沼環境となることを目指している。</p> <p>[URL]http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/dojo/index.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>地域資源としての生物多様性の保全と持続可能な利用に関する調査研究</p> <p>長野県の生物多様性は、この地域でみられる日本でも有数の美しい自然環境を特徴づけている。この生物多様性のもたらす恵みを未来の世代に引き継ぐため、「生物多様性ながの県戦略」が平成24年に策定された。この「戦略」に示された目標と行動計画の達成手段をあきらかにし、その達成に貢献することを目的とした調査研究を行っている。</p> <p>[URL]http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/tayose/index.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>侵略的外来生物を早期発見するためのモニタリング手法及び防除技術の開発</p> <p>本研究では、長野県内の外来生物リスト、その生態や影響・課題等を積極的に情報発信するとともに、多くの方に情報提供してもらおう仕組みをつくること、特に問題が大きいものについて、その分布や被害状況等のモニタリングを継続していくとともに、種によっては駆除方法を検討していく。</p> <p>[URL]http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/gairai/index.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>高山生態系における長期モニタリングとその手法に関する調査研究</p> <p>県内の高山帯では、ニホンジカの摂食圧増加による影響が拡大しつつあり、また、気候変動による高山帯の生物群集への影響も危惧されている。そのため、これまでに構築したモニタリングサイトに加え、新規モニタリングサイト（御嶽山）の構築をすすめる。また、県内の高山帯全体の状況を把握するためには、登山者や山小屋関係者などと連携し、多くの人の目で観察することが必要となる。そのため、新たな登山者参加型の環境情報（ライチョウ・ニホンジカ等）収集手法の開発を、県自然保護課と連携して行う。</p> <p>[URL]http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/kozan/index.html</p>

(続き) 長野県環境保全研究所

調査研究課題名 及び概要	<p>野生鳥獣の保護管理に向けた生態解明及び被害対策の普及啓発</p> <p>本研究では、県が法律に基づき進める特定鳥獣保護管理計画や被害対策に資する基礎資料を提供することを目的に、特に問題になっているシカやクマの捕獲個体の年齢査定やカモシカの胃内容物調査、魚食性鳥類の生態調査を実施するとともに、鳥獣の生態や被害対策に関する普及啓発を進める。なお、野生鳥獣の保護管理に関わる研究プロジェクトは、平成13年より3, 4年ごとに内容を見直しながら進めている。</p> <p>[URL]http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/yase/index.html</p>
実施機関名	静岡県環境衛生科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>ワサビ田に棲む生物の食性</p> <p>ワサビ田の生態系解明の一環として、炭素窒素の安定同位体比分析を活用した水生昆虫等のワサビ田に棲む生物の餌資源の調査を実施している。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>外来不害虫ヤンバルトサカヤスデの分布・生態特性の解明</p> <p>1980年代に台湾から沖縄に侵入し、近年本州でも確認されている外来種ヤンバルトサカヤスデは、秋の繁殖期に異常発生して集団で壁によじ登ったり家屋に侵入するなどの不快性被害を引き起こし、静岡県内でも問題となっている。これまで、静岡県内における本種の生態特性や環境適応度を把握するとともに、分子生物学的手法を用いて分布拡大パターンを解明してきた。現在、県内の市町、保健所へのアンケート調査を秋の異常発生が起こる時期に実施し、分布拡大状況の把握に努めている。</p>
実施機関名	さいたま市健康科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>アズマモグラの繁殖生理に関する研究</p> <p>モグラは地中にトンネルを作る習性により田畑や堤防などに影響を及ぼしうる身近な動物である。しかしこれまでのところ、その繁殖に関してはあまり明らかにされていない部分が多い。そこでモグラの害を防ぐために有益な情報を提供することを目的とし、このモグラの繁殖生理について調査する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>生物応答手法を用いたさいたま市内河川水水質調査</p> <p>環境省が導入を検討している、生物応答手法を用いた排水検査のうちニセネコゼミジンコを用いた排水試験法の検査を行えるようにする。</p> <p>また、その手法を用いてさいたま市内の河川水の水質調査を行う。</p>
実施機関名	横浜市環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>「山下公園前海域における水質浄化能力の回復に向けた生物生息環境の改善手法」に関する共同研究</p> <p>山下公園前海域に、鉄鋼スラグ製品を用いた「つき磯」を造成することで生物の生息環境を改善し、生物相の回復と水質浄化能力の向上について検証している。定期的なモニタリング調査を実施している。</p> <p>[URL]http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/sea/umidukuri/</p>

(続き) 横浜市環境科学研究所

調査研究課題名 及び概要	水域生物多様性に関する調査業務（海域）委託 市内生物生息状況を把握するとともに生物指標による水質評価を行うことを目的とし、2年おきに河川調査と海域調査を行っている。本年度は14回目の海域調査を実施しており、河口・海岸の7地点及び内湾の3地点を調査対象とし、魚類、海岸動物、底生動物、海草・海藻、プランクトンの種群を調査している。 [URL] http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/kaiiki.html
調査研究課題名 及び概要	横浜市内の池における魚類、甲殻類（十脚目）調査 横浜市内の池を対象とし、横浜市環境科学研究所職員による直営の生物調査を実施している。調査対象は魚類、甲殻類（十脚目）。 平成29年度は、市内の9つの池で調査を実施した。
調査研究課題名 及び概要	陸域生物調査 鶴見川流域にある新治市民の森、新横浜公園、獅子ヶ谷市民の森において、植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、昆虫類の調査を行う。生物生息情報のほか、環境変化や地域特性による生物相の違いについて基礎資料を得ることを目的とする。 [URL] http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/
調査研究課題名 及び概要	市民協働調査 市立小学校341校の5年生を中心に調査票を配布し、過去1年間に学区内で見つけ生き物について回答してもらった。今年度の調査対象は、ツバメの巣、ホタル等の9種類である。 [URL] http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/ikiiki.html
調査研究課題名 及び概要	外来種に関する調査（宮川源流域における在来種のヌカエビと外来種のカワリヌマエビの生息について） 近年、横浜市の河川や池で、外来種のカワリヌマエビ属が分布を拡げており、生態系への影響の一つとして在来種のヌカエビと競合し、ヌカエビが駆逐されることが懸念されている。本調査では、カワリヌマエビ属とヌカエビが生息する横浜市金沢区の宮川源流域をモデルケースとし、生息状況をモニタリングするとともに、ヌカエビ保全を前提としたカワリヌマエビ属の効率的な駆除方法を検討している。
実施機関名	川崎市環境総合研究所
調査研究課題名 及び概要	生物学的試験による化学物質の生態影響に係る環境リスク評価手法に関する研究 生物応答を利用した環境リスク評価の手法を確立するため、試験用生物の安定した飼育・繁殖を検討するとともに、それらの試験生物を用いて化学物質の影響について基礎的な暴露実験を行い知見の集積をしている。 [URL] http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html （過去の調査結果を研究所ホームページ内の年報のページに掲載）

(続き) 川崎市環境総合研究所

調査研究課題名 及び概要	河川等の水質及び水生生物の生息・生育状況モニタリング調査 川崎市水環境保全計画に基づき、市内河川、海域、親水施設等の水質や水生生物の生息状況を継続的に調査している。 [URL] http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html (過去の調査結果を研究所ホームページ内の年報のページに掲載)
調査研究課題名 及び概要	水環境における生物多様性に関する調査研究 市内に生息する生物の種類を、顕微鏡観察およびDNA配列の解析により調査し、市内調査地点における生物多様性の状況を把握している。 [URL] http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html (過去の調査結果を研究所ホームページ内の年報のページに掲載)
実施機関名	石川県保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	植物プランクトンを活用した水質浄化の研究 前回 (H24～26) の調査研究において、石川県内にある河北潟の水質汚濁は、難分解性有機物よりも春から夏にかけての懸濁態有機物 (植物プランクトン) が主因であるとする結果が得られた。 そこで、懸濁態有機物発生の原因となる河北潟へ流入する河川中の窒素・磷等 (栄養塩) を河北潟在来の植物プランクトンを活用して除去する浄化装置を試作し、その稼働条件等について検討している。 [URL] http://www.pref.ishikawa.lg.jp/hokan/gaibuhyouka/documents/26jizen.pdf http://www.pref.ishikawa.lg.jp/hokan/gaibuhyouka/documents/28cyukan.pdf
実施機関名	愛知県環境調査センター
調査研究課題名 及び概要	絶滅危惧種フォローアップ調査 レッドリストあいち2015に掲載されている絶滅危惧種及び今後絶滅危惧種となるおそれのある種について、最新の生息生育情報を収集・解析する。
調査研究課題名 及び概要	外来種調査 県内に生息する外来種について、最新の生息生育状況の収集・解析を行う。
調査研究課題名 及び概要	油ヶ淵における生物多様性モニタリング手法の開発 愛知県の天然湖沼である油ヶ淵において、過去からの動植物生息生育状況のデータベース化を行う。さらに、水生植物の生育調査を行うとともに、水質との関係を解析することで、油ヶ淵における生物のモニタリング手法の開発を行う。
調査研究課題名 及び概要	海上の森自然環境保全地域における希少種の保全についての研究 海上の森自然環境保全地域では、シデコブシ等の希少種が植生の遷移により他の樹木等に被陰されて生育状況が悪化しているため、多様な主体の協力により、間伐など希少種の保全活動が行われている。この保全活動後の植物の状況を調査・解析する。

実施機関名	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	琵琶湖・瀬田川プランクトン等のモニタリングと遷移の評価 1. 琵琶湖・瀬田川プランクトン等モニタリング調査 ・植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン (北湖4地点(6検体), 南湖1地点で年24回) ・植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン(1地点で年52回、毎週HPで結果公表) ⇒プランクトンのモニタリング結果を理化学的な水質調査結果と併せて解析・評価し、環境審議会等の場で報告する。 2. 瀬田川におけるプランクトン遷移の評価 ・これまでの調査結果を整理し、動物・植物プランクトンの遷移を評価する。 [URL] http://www.pref.shiga.lg.jp/d/biwako-kankyo/lberi/02shiraberu/02-04plankton/02-04plankton.html (プランクトン観測室)
調査研究課題名 及び概要	養浜事業による沿岸域の底質・生物への影響の実証的研究 平成27年度から養浜事業が実施され、シジミ等の生息が確認されているマイアミ浜(野洲市菖蒲)において、底質、水質、底生動物、プランクトン(藻類シード)等のモニタリングを行う。底生動物の生息環境・餌環境の視点から、工事実施前の現況と、工事実施後の底生動物の回復過程、底質、プランクトン等の動態を把握し、砂地化による短期的な生息環境・餌環境への影響を評価する。
調査研究課題名 及び概要	琵琶湖沿岸域における湖底環境・生物再生に向けた研究 底生生物の指標である二枚貝に適した生息環境を探るため、シジミ稚貝を用いた飼育実験を実施し、成育環境・餌環境を検討・評価する。
調査研究課題名 及び概要	化学物質の影響把握と緊急事故対応のための基盤構築 環境水中に含まれる個別の化学物質の評価では捉えられない化学物質総量としてのリスク評価を行うため、魚類を用いた生態影響試験の活用方法等を検討し、影響把握を行う。
実施機関名	京都府保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	携帯端末を利用した京都府内河川の底生動物調査支援アプリケーションの開発 京都府内河川の底生動物調査を実施し、河川環境を評価する。結果は携帯端末用のアプリケーションとして公開し、京都府内の河川環境を知ってもらう機会を提供する。 また、本アプリケーションに底生動物の同定を支援する機能を追加し、環境省と国土交通省が実施する全国簡易水生生物調査などの一般市民が参加する底生動物調査で活用してもらい、調査精度の向上等に役立ててもらおう。 [URL] http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/no114.pdf (京都府保環研HP たより)

(続き) 京都府保健環境研究所

調査研究課題名 及び概要	アルゼンチンアリ根絶方法に関する検討 2012年12月からの地域一斉防除により、アルゼンチンアリ生息密度減少、生息域の拡大阻止と分断化を達成し、根絶目標のための補完的防除も一定の効果を示すことが明確となった。しかし地域全体では難防除地点が点在し生息範囲はなかなか縮小できない状況である。管理区分等が複雑な都市域で、根絶達成のための効率的な防除手法の開発と根絶確認のためのより精度の高い調査手法を検討する。 [URL] http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou61-99.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou60-99.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou59-99.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou59-08.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/tayori108.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou58_99.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou57_99.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou56_10.pdf
調査研究課題名 及び概要	地域の生物相調査から行う環境影響評価研究 1999年から実施している地域の生物モニタリング調査を継続実施している。2015年から府南部の都市域で実施している蚊類については、2017年は調査地点に府中部の農村部を新たに追加して発生状況調査を実施している。また、研究所の建て替え工事での環境かく乱による生物相への影響調査をバックデータと比較することで行う。 [URL] (京都府保環研HP 年報) http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou61-07.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou61-08.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou60-09.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou59-09.pdf http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/nenpou58_10.pdf

(続き) 京都府保健環境研究所

調査研究課題名 及び概要	ネオニコチノイド系農薬の脊椎動物に対する安全性について ネオニコチノイド系農薬は有機リン系農薬に代わる低毒性の神経伝達阻害物質であり、水田等において育苗箱施用殺虫剤として広く使用されている。一方で、蜂群崩壊症候群との因果関係や、施用地におけるトンボ類の壊滅的な減少が指摘され、ネオニコチノイド系農薬による水田生態系への影響が危惧されている。ネオニコチノイド系農薬による直接的な毒性影響は、同生態系での高次捕食者として位置づけられる脊椎動物について十分に解明されていない。本研究では、試験対象としてカエル類を選定し、低濃度長期暴露によるネオニコチノイド系農薬の直接的な影響を個体レベルで調査することにより、一般的に節足動物以外に対しては低毒性とされているネオニコチノイド系農薬の安全性について再点検を行う。
調査研究課題名 及び概要	京都府内における外来種ミシシippアカミミガメを含む淡水ガメの生息実態調査 環境省により「緊急対策外来種」に指定されたミシシippアカミミガメについて、①京都府内における分布状況を把握する、②生態上、重要な水域における生息状況や在来種との競合、生態系への影響等を明らかにする、③捕獲防除したミシシippアカミミガメの処理方法について提案する等、本府と環境省の在来種対策、ミシシippアカミミガメ対策に有用な情報を提供するため、野外調査及び室内実験を実施する。 [URL] http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/tayori111.pdf
実施機関名	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所
調査研究課題名 及び概要	シカ・イノシシのモニタリング調査 農林業被害の軽減・人と野生鳥獣の共存を図るため、大阪府では鳥獣保護管理法に基づくシカ・イノシシの第二種鳥獣管理計画を策定している。この管理計画の策定や進捗状況の点検のためには、地域におけるシカ・イノシシの生息状況や被害状況などの定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府シカ・イノシシ第二種鳥獣管理計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。 [URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf
調査研究課題名 及び概要	外来生物対策調査業務 本来日本には生息しない外来種であるアライグマは、近年生息域を広げて農業被害が拡大しており、大阪府では外来生物法に基づく防除実施計画を策定して対策を実施している。計画の策定や進捗状況の点検のためには、アライグマの生息状況や被害状況など定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府アライグマ防除実施計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。 [URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf

(続き) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>日本のシカ-植生モニタリング調査 (2009, 2018) からみた地域の生物多様性保全研究</p> <p>植生学会が2009-2010年に全国の植生を対象に実施したシカの影響調査と同様の規模で2017-2018年に全国調査を実施することで、シカによる植生および地域生態系への影響の推移を全国規模で把握し、その経年変化を比較検討する。同時に、大阪で生物多様性ホットスポットなど貴重な自然の保全活動を行ってきた市民・環境保全グループを対象にシカ対策の成果や課題を集約・解析する。以上により、市民・保全団体が活用できるシカ問題解決のための統合的管理を提案する。</p> <p>[URL]http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00056403/H25-nihonjika.pdf</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>イタセンパラ保護定着調査</p> <p>国の天然記念物の淡水魚イタセンパラは、河川改修によるワンドの消失、河川の攪乱の減少、外来魚の増加などにより個体数が著しく減少し、平成17年を最後に生息確認が途絶えた。そこで、当研究所では、国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所とともに、本種を当所の保存池で飼育継代するとともに、淀川ワンド群の生物多様性復元の一助とするため、イタセンパラ放流ワンドでの本種を含めた在来魚の生息・繁殖状況を明らかにする。また、外来水生生物の実態を把握し、駆除技術を開発するとともに、本種を含めた在来魚種に感染する恐れのある魚病検査を実施する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gi_jutsu/seika/hogo/itasen/saidounyu.html http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057783/h26_07itasenpara.pdf</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>希少魚の保護増殖試験</p> <p>都市化に伴う生息環境の悪化等により、府内では魚など多くの水生生物に生息数の著しい減少がみられるようになった。そこで、大阪府における保護上重要な野生生物（レッドデータブック）で絶滅危惧種に指定され、現在絶滅が危惧されているイタセンパラやニッポンバラタナゴなどについて、種の系統保存を図るとともに、その生息状況を把握する。</p> <p>[URL]http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gi_jutsu/seika/hogo/index.html</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>淡水生物増殖試験</p> <p>大阪府における保護上重要な野生生物（レッドデータブック）に記載されている希少水生生物を保護するための調査試験を行う。平成15年度から平成26年度にかけては水生植物ミズアオイ、平成27年度からは淡水二枚貝のイシガイ類の保全に係る研究に取り組んでいる。</p> <p>[URL]http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gi_jutsu/seika/mizukusa.html</p>

(続き) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

調査研究課題名 及び概要	安威川ダム魚類捕捉調査業務 平成32年の竣工に向けてダム建設工事が進んでいる安威川において、アジメドジョウをはじめとした魚類、水生動物、付着藻類、植生を調査し、ダム建設を進める上で保全すべき環境要素や留意点を明らかにする。 [URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/ai.html
調査研究課題名 及び概要	漁業権河川調査 大阪府内8河川に設定されている漁業権免許の更新時には、漁業法第11条に基づいた漁業計画の策定が必要となる。漁業計画策定に際しては、漁場の有効性等を検討する必要があることから、河川漁業権漁場の総合的な実態調査を実施する。調査地点の無機的環境、付着藻類、底生動物、魚類の調査を実施する。
調査研究課題名 及び概要	生物応答を利用した排水管理手法 生物応答を利用した排水管理手法であるWETについて、その方法や国内外の実施状況をまとめ、有効性と導入に向けた問題点を抽出する。
調査研究課題名 及び概要	外来種クビアカツヤカミキリのサクラ類被害実態調査 クビアカツヤカミキリは、サクラ類をはじめバラ科樹木を広く加害し、枯死に至らせる外来種であり、一旦侵入すれば生態系への甚大な影響が懸念されている。 大阪府域では、2015年に侵入が確認されて以来、サクラ類への被害が急速に拡大している。しかし、被害の範囲や程度、今後の拡大予測、あるいは被害を受けやすい樹木の特徴など、駆除対策に必要な基礎的情報が不足している状況にある。 本研究は野外での被害実態調査を通して、これらの基礎的情報を早期に収集する。
実施機関名	奈良県景観・環境総合センター
調査研究課題名 及び概要	WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ (Ⅱ型共同研究への参加) ・Ⅱ型共同研究に参加し、各地環研が採水したサンプル(河川水)を用いて生物影響試験を行い、結果の共有及び試験精度の向上を図る。 また、研究の過程で得られた知見・技術などを共有することで、試験法の改善案などを検討していく。 ・WET手法(ミジンコ繁殖試験法)により、県内河川(今年度は大和川の環境基準点2地点)及び処分場浸透水を用いて生物影響試験を行い、ニセネコゼミジンコへの影響を評価する。

実施機関名	和歌山県環境衛生研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>第2次 底生動物相を用いた河川の水質評価（日高川・古座川・富田川 編）</p> <p>約20年前に実施した底生動物相を比較することにより、底生動物相及び河川の水質評価の変遷を調査する。</p> <p>得られたデータはホームページやパンフレット等により環境学習に活用していく。</p> <p>[URL]http://www.pref.wakayama.lg.jp/bcms/prefg/031801/mizube/ （わかやまの川のいきものたちわくわく！水辺の楽習教室）</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>共同研究Ⅱ型「WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ」</p> <p>共同研究Ⅱ型「WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ」に参加し、WET手法に関する情報収集を行う。</p> <p>本県では、ニセネコゼミジンコを用いた排水試験法の検査に取り組み、技術習得を目指す。</p>
実施機関名	名古屋市環境科学調査センター
調査研究課題名 及び概要	<p>生物応答を用いた排水（環境水）試験方法</p> <p>この試験法は、環境中に排出される事業所排水を、魚類・甲殻類・藻類の3種の水生生物を用いて試験を行い、排水が水生生物に影響を及ぼさないかを評価する試験である。従来の排水規制を補完する役割として注目されており、当センターにおいて、3種の生物の飼育試験を行っている。</p> <p>[URL]http://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000067013.html</p>
実施機関名	鳥取県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>水環境における希少動植物の保全に向けた研究</p> <p>鳥取県の特定希少野生動植物に指定されているカラスガイと、東郷池で復活が望まれているセキショウモ（水生植物）の保全・再生手法を確立し、得られた基礎技術・知見を基に、湖沼の環境保全と自然再生を目指す。</p> <p>[URL]http://www.pref.tottori.lg.jp/144171.htm</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>湖山池の汚濁機構解明</p> <p>湖山池の水質汚濁の要因を分析し、汚濁機構原因の究明を目指すとともに、本湖で問題となっている有害プランクトンの増殖特性の把握を目指す。</p> <p>[URL]http://www.pref.tottori.lg.jp/144171.htm</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>環境水中のレジオネラ属菌の迅速検査法に関する研究</p> <p>感染症の1つであるレジオネラ症の拡大防止において公衆浴場等の浴槽水中のレジオネラ属菌を迅速に検出することは、公衆衛生上重要である。レジオネラ属菌を迅速に検出する方法の改良、検証を継続し、実用化を図る。</p> <p>[URL]http://www.pref.tottori.lg.jp/144171.htm</p>

(続き) 鳥取県衛生環境研究所

調査研究課題名 及び概要	刈り取ったヨシの再利用 宍道湖にたくさん繁茂しているヨシを刈り取って処分するのではなく、再利用の可能性を探る。本年度は刈り取ったヨシを小さく刻んで花壇等に撒いてマルチング材として利用可能かどうか研究する
実施機関名	岡山県環境保健センター
調査研究課題名 及び概要	児島湖のユスリカ幼虫調査 児島湖の周辺地域では、ユスリカの大量発生が問題となっている。特に、平成18年以降は大量に発生したユスリカが外壁・洗濯物、商店の商品等に付着し、不快害虫として問題となったことから、対策として集落地区に近い場所に誘蛾灯が設置された。また、近年苦情等被害は減少してきているが、住宅地に近接する湖南部はユスリカ幼虫個体数が多く確認されていることから、年4回、湖南部を含む湖内3地点で継続調査を行い、対策検討の一助としている。 [URL] (環境保健センター年報) http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/466230_3271403_misc.pdf http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/462947_3229105_misc.pdf
実施機関名	山口県環境保健センター
調査研究課題名 及び概要	榎野川河口干潟(南潟)における順応的取組推進に向けた調査研究 昨年改正された瀬戸内海環境保全特別措置法において、沿岸域の保全・再生が明記され、干潟の持つ多面的機能の重要性が再認識されている。榎野川河口干潟(南潟)では流域住民がアサリ漁場の再生などを目標にした流域づくりを行っており、里海づくりについては、人力による干潟耕耘や被覆網の設置などに取り組むことで一定の成果を収めている。一方で耕耘の効果には不明な点が多いことや、被覆網の管理負担が大きいこと等の課題もある。本研究では耕耘が底質や水質に与える影響の評価や、フィールドの実態に合わせた効果的な被覆網の設置法に関し、科学的な知見を得ることを目的に実施する。
実施機関名	香川県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	ニッポンバラタナゴ <i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i> の遺伝子解析ーニッポンバラタナゴ香川個体の遺伝子モニタリングー ニッポンバラタナゴはコイ科タナゴ亜科に属する日本固有の小型淡水魚で、環境省のレッドデータブックにおいても絶滅危惧IA類(CR)に指定されている。香川県の東讃地域はニッポンバラタナゴの貴重な生息地である。 ニッポンバラタナゴの保護には、交雑の恐れのあるタイリクバラタナゴとの正確な判別が不可欠であるが、両亜種は形態に差異が少なく、外見では判別が困難である。そのため、ミトコンドリアDNAのPCR-RFLP分析による遺伝子モニタリングを行っている。 [URL] http://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/e_center/syohou/2015.htm

(続き) 香川県環境保健研究センター

調査研究課題名 及び概要	<p>生物応答を利用した化学物質評価に資する研究</p> <p>モデル生物である自活性線虫を用いた化学物質の毒性や食品の機能性・有用性の評価法が注目されているが、これをさらに発展させるため、メタボロミクスの技術を応用した新規評価システムの構築を目指す。</p> <p>[URL]http://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/e_center/theme/2002/theme16.htm</p>
実施機関名	愛媛県立衛生環境研究所（生物多様性センター）
調査研究課題名 及び概要	<p>特定希少野生動植物保護管理調査事業</p> <p>愛媛県の絶滅危惧種のうち、特に保護が必要な種については愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づき、特定希少野生動植物に指定しているが、保護管理を推進するためには対象種の生息状況の把握や、有効な保全対応策の開発が必要になっている。</p> <p>そこで、生物多様性センターが中核となり生息状況調査等を実施し、保全策等を施策に反映させる基礎資料とする。</p> <p>平成24～26年 対象種：ナゴヤダルマガエル 平成26～28年 対象種：コガタノゲンゴロウ 平成29～30年 対象種：トキワバイカツツジ</p> <p>[URL]https://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity/</p>
実施機関名	高知県環境研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>四万十川における清流基準調査</p> <p>平成13年に制定された「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」（略称：四万十川条例）にて定められた清流基準に基づいて調査を行っている。この清流基準調査は環境基本法に定められた環境基準に加えて、新たに清流度、水生生物及び窒素・りんの項目を設定したものである。微妙な水質の変化を分かりやすく人の感覚に対応したものである。</p> <p>[URL] 高知県環境共生課のホームページ http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/ 高知県環境研究センターのホームページ（所報） http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030802/kochikenkanyoukenkyuusenta-syoho.html （平成26年度（第31号）調査研究5、平成24年度（第29号）調査研究4 等）</p>
実施機関名	福岡県保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>植物の環境ストレス診断法の確立と高度化に関する研究</p> <p>植物を用いた環境影響評価によって環境情報の充実と大気環境の保全に取り組むため、分子的メカニズムに基づく野外におけるストレス診断方法を実地検証して確立し、その高度化を図る。国環研Ⅱ型共同研究として実施する。</p>

(続き) 福岡県保健環境研究所

調査研究課題名 及び概要	英彦山ブナ林生態系の保全・復元に関する研究 英彦山ブナ林は、台風被害等によりブナの衰弱・枯死が進み、さらに近年では、シカの生息密度増加に伴う低木の食害や林床植生の劣化が生じている。そこで、シカ食害を防ぐための防護柵に対する生態系の応答とそのメカニズムを明らかにする。また、この知見を英彦山のブナ林に広域的に展開し、具体的な生態系の保全・復元計画を提案することで、効果的な生物多様性保全策への貢献を目指す。
調査研究課題名 及び概要	森林生態系における生物・環境モニタリング手法の確立 日本各地における衰退が懸念される森林生態系の評価と保全対策に資するための生物・環境モニタリング手法を確立し、標準調査マニュアルを作成する。国環研Ⅱ型共同研究として実施する。
調査研究課題名 及び概要	侵略的外来種の防除手法に関する研究 「福岡県侵略的外来種リスト」(平成29年度に公表予定)に掲載された侵略的外来種のうち、防除手法が開発されている種は少なく、防除対策の推進上の大きな課題になっている。そこで、侵略的外来種のうち、防除手法が開発されていない種を対象に、県内で特徴的な種や広範に分布する種を選定し、外来種対策に資する効果的な防除手法を確立する。
調査研究課題名 及び概要	県民参加型の生物多様性調査マニュアルの開発 生物多様性指標を活用するためには、非専門家であっても生物種の同定を正確に行い、指標を適切に使用することがきわめて重要である。そこで、本研究では、指標の活用を推進し、生物多様性保全に資するために、種同定のための適切な県民参加型マニュアルを開発する。
実施機関名	長崎県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	内部生産低減による淡水系閉鎖性水域の水質浄化に関する研究 水質浄化能力に優れた淡水性二枚貝であるイケチョウガイを諫早湾干拓調整池内での大量飼育につなげていくために、実際にイケチョウガイを調整池において地蒔き飼育し、その生育状況等について調査を行い、地蒔き飼育の可能性について検証する。 [URL] http://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2016/11/1479278096.pdf
調査研究課題名 及び概要	ツシマヤマネコ保護増殖事業(環境省委託事業)にかかる糞等のDNA分析 ツシマヤマネコ保護増殖事業の一環として、生息状況モニタリング(痕跡調査)において採取された糞サンプル等について、DNA分析により種判別、性判別及び個体識別を行う。

実施機関名	熊本県保健環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>熊本県内河川における災害後の水生生物相の把握について</p> <p>平成28年度水生生物調査において、一部の地点で確認された指標生物種数が大幅に減少していた。平成28年は本県において4月に熊本地震、6月に大雨が発生したため、これらの災害が水生生物相に影響を与えた可能性がある。</p> <p>本調査では、指標生物種数の減少が見られた地点を中心に調査を行い、災害発生後の水生生物相の状況を追跡し、河川環境の回復等を把握する。</p>
実施機関名	宮崎県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>県内主要河川における水生生物に関する調査研究～水辺環境学習の充実化に向けて～</p> <p>宮崎県では、小中学校等で水辺環境学習を実施しており、その中で水生生物調査を行っている。このとき指標として挙げられている生物は本州に生息する生物が中心であるため、本県の生息状況とそぐわない部分がある。河川の水生生物の生息状況を調査し、本県の生息状況に即した、よりわかりやすい資料を作成することを目的に実施している。</p>
実施機関名	福岡市保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>福岡市内河川の底生動物を用いた環境評価</p> <p>福岡市内河川の水環境について、水質検査だけでは把握できない環境影響や長期的影響を把握することを目的として、河川底生動物を指標とした環境評価を5河川（多々良川，那珂川，御笠川，樋井川，室見川）で順に実施している。2017年度は室見川の淡水域について底生動物の調査を実施し、ASPT値，簡易水質判定法を用いて環境評価を行った。</p> <p>[URL]http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/hokanken/kenkyu/shoholist.html</p>